

ECRR 事務局からのアンケートに対する ARRN/JRRN 事務局回答について

2011 年 4 月 25 日（月） JRRN 事務局

- ◆アンケート依頼者： ECRR（ヨーロッパ河川再生センター）事務局・インターン実習学生
- ◆アンケート回答者： ARRN/JRRN 事務局
- ◆依頼日：4 月 13 日（水） ◆回答日：4 月 22 日（金）

※質問の和訳を赤字で示してあります

質問 1. This initiative of ARRN started as a cooperation between three countries: China, Korea and Japan. What type of partnership do you share with one another?

ARRN は日中韓の三か国主導で設立されましたが、互いにどのような種類の協力関係を共有するために設立されましたか？

<回答>

ARRN は 2006 年に開催された第 4 回世界水フォーラムを契機に設立されました、その背景については、以下の ARRN 紹介資料をご覧ください。

- ・ ARRN 概要説明： http://www.a-rr.net/jp/en/arrn/docs/ARRN_overview.pdf

ARRN 規約の冒頭で定義している通り、アジアの河川・流域再生に関わる参加者相互の「情報交換」を主目的に設立されました。互いに言語が異なる中で、それぞれの知見や経験を、英語を共通語として共有することを目指しています。

- ・ ARRN 規約： http://www.a-rr.net/jp/en/arrn/docs/arrn_charter.pdf

質問 2. On the website you say 'one of the objectives is to provide opportunities and venues for river restoration...'

How is river restoration interpreted by your network, compared to the explanation of river restoration given by the ECRR (see: <http://ecrr.org/home-ecological-river-restoration.html>)?

ARRN ホームページにおいて、「ARRN の一つの活動目的は、河川・流域再生に関わる知見や経験を交換し共有できるよう、関係する団体・個人にこうした機会と場を与えることである」と述べています。ARRN 内では「River Restoration」をどのように解釈していますか？ ECRR における定義 (<http://ecrr.org/home-ecological-river-restoration.html>) と比較した上で教えて頂きたいです。

<回答>

ARRN 設立の契機となった第 4 回世界水フォーラム分科会における提言の中に、ARRN の考える「River Restoration」の一部が含まれますので、まずはご覧ください。

- ・ 6 つの提言： <http://www.a-rr.net/about/overview.html>

これまでの ARRN 内での議論では、ECRR の「River Restoration」の定義と類似している一方で、アジアには高い人口密度、急激に進んだ都市化、頻発する洪水等の特徴があるため、自然環境再生 (ecological restoration) と同様に、河川に関わる社会環境 (social) や文化 (cultural) の再生も重要な視点であるという認識を持っています。

一方で、ARRN 設立以降、日中韓を中心に河川再生に関わる意見交換をしてきましたが、それぞれの国に「River Restoration」を意味する母国語があり、それぞれの言葉の背景や目標が異なることが最近になって分かってきました。そのため、まずは ARRN として、「River Restoration」や「River Rehabilitation」などの用語の定義をきちんと議論し、現在作成している ARRN River Restoration Guideline へ反映する作業に着手しています。この「River Restoration」の解釈を含め、2010 年 9 月に ECRR 会長にも参加頂いた ARRN Roundtable Meeting 内で議論しているので、詳しくは以下の講演録をご参照ください。

- ・ Roundtable Meeting 講演録： <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/ARRNroundtableEng.pdf>

よって、現時点で ARRN としての「River Restoration」の定義についての明確な回答は見出していません。

質問 3. How do you maintain the relationship between the other networks (China, Korea) at a healthy level? What form of communication do you make use of?

どの様にして、中韓ネットワークと健全な関係を維持していますか？ 具体的に、どの様なコミュニケーション方法を利用していますか？

<回答>

ARRN 組織体系については、ARRN 規約の Article 6 から Article 9 に記載してあります。

- ・ ARRN 規約： http://www.a-rr.net/jp/en/arrn/docs/arrn_charter.pdf

毎年 ARRN 運営会議を開催し、各ネットワーク幹部が直接顔を合わせ、ネットワーク運営や技術に関し意見交換しています。また、このタイミングで国際フォーラムを開催し、各国の最新の知見を交換しあうことで、専門分野に関する相互の理解を深めています。

年一回では十分な意思疎通ができないと判断し、2008 年に二つの委員会を設け、年一回の会議形式の委員会を追加開催することにしました。しかし海外出張経費の制約等から、2010 年からは委員会活動は電子メール等での意見交換に変更しています。

ちなみに、ARRN 運営会議はこれまで 5 回、ARRN 国際フォーラムは 7 回、ARRN 委員会は 2 回開催し、概要は以下のホームページをご覧ください。

・ARRN 活動履歴：<http://www.a-rr.net/report/index.html>

また、日常の日中韓事務局のコミュニケーションは電子メールを用いて実施し、ARRN 河川再生ガイドラインやARRN 年次報告書等を共同で作成しながら、相互の技術情報や活動概要を共有しています。

質問 4. China is known for its sometimes environmental unfriendly projects... How do you as a transnational network deal with these kinds of situations (if they occur)?

中国では一部に環境に配慮していない事業が散見されますが、一国の利害を超えたネットワークとして、こうした問題に対しどのように対処していますか？（もしそうした事例があれば）

<回答>

ARRN の中国窓口である CRRN は中国政府水利部の研究機関（中国水利水電科学研究院）が事務局を担い、河川環境分野においても数々の先進国との技術交流を実施している組織のため、高いレベルの環境配慮に根ざした技術的知見を有しております。よって、中国国内における河川環境面での課題等も分析した上でARRN 主催行事等で紹介し、こうした課題克服にどの様にARRN メンバーである他国が貢献できるかという議論が可能となっています。また、その際、各メンバーの事業や方針を批判し合うのではなく、良い点を学びあう方向で議論を進めています。

質問 5. What is the political opinion of your networks' activities? Positive or negative, could you please further explain this?

ARRN の活動に対し、政府機関はどのような立場、意見を持っていますか？ 肯定的か、それとも否定的か？ 詳しく説明頂けますか？

<回答>

ARRN 設立の契機となった第4回世界水フォーラム分科会は、日中韓政府の河川関係部局が主催したため、当初から政府の肯定的な支援の中で設立されました。ただし、ARRN はあくまで各国内ネットワーク（日中韓等）のネットワークであるため、特定の政府機関に属することなく、ARRN 規約冒頭においても「ARRN is a non-political organization.」と宣言しています。

各国内ネットワークにおける政府との関係は各国で異なります。

日本(JRRN) 及び韓国(KRRN)に関しては、国内外活動に対する政府機関からの資金面での支援は受けておらず、主催行事での後援等や講師派遣等の間接的な支援を政府機関から頂いています。各国内ネットワーク運営は、政府は関与せず、公益法人（政府系 NPO）及び民間企業が行っているため、政府機関とは中立性を保っていると考えています。

一方、中国(CRRN)については、政府直轄の研究所が事務局を担っており、政府機関が運営し、CRRN 職員も、また活動資金も政府に属します。

質問 6. If you face political struggles/biases, how do you deal with it?

もし現在、政治的もしくは行政的な苦勞や偏見等に直面しているならば、あなた方はどのようにしてそれらに対処していますか？

<回答>

現状の ARRN の活動範囲において、複数の国での調整を要するような大きな政治的課題には直面しておりません。この理由の一つに、現在の ARRN 主要メンバーである日中韓が直接関係する国際河川がないことがあります。アジアにも国際河川が多数存在するため、この問題を扱うようになれば様々な政治的苦勞が生じてくると思います。

ARRN に関わる政治的問題の一つとして、台湾の ARRN 加入手続きにおいて、中国との国際的な立場の関係があるため、ARRN 関係者の中で数年に渡り議論を続けております。ARRN の組織体系は ECRR を手本としており、各国内ネットワークの集合体としてのネットワークとしております。そのため、台湾の様な「国」ではない「地域」の加入方法について、現時点で解決を見出しておりません。

質問 7. If you do get political support, in what form, what type of support do you get?

もし政府の支援等を得ているならば、どのような類の支援を受け入れていますか？

<回答>

質問 5. の通りです。

質問 8. Regarding question 6 and 7: What would be a better situation? Can you give an example of a case, which you rather have seen happened it in another way?

先の質問 6、7 に関連し、よりよい状況とはどんな状態であるとあなたはイメージしていますか？現在は実現していないが、こうなったらよりよいだろうという一例を示して頂ければ幸いです。

<回答>

ARRN の目指すところは、自主自立の精神を基本としながら、国際的な情報と人材の交流活動を通じ、それぞれの参加国・地域の河川再生の技術や仕組みが発展することにあります。その意味で、例えば台湾の問題で言えば、ARRN 規約冒頭で「non-political organization」と宣言し

ていますので、政治的思惑を排除し、科学技術に根ざした開放的な国際活動を展開できることが理想形と考えています。

政府との関係については、日中韓それぞれの国内でも差異はあるものの、歴史的に河川事業は税金を財源として政府行政機関が主導で担ってきましたし、これからもその基本は変わらないと思います。しかし、特に財源や人材面において、企業や市民等の民間の重要度がこれまで以上に増しており、行政セクター、民間セクター、市民セクターそれぞれが対等に関わりながら河川再生に取り組む社会システムが理想的と思います。よって、これまで主導的に河川再生を担ってきた政府・行政機関と良好な関係を維持しながらも、これまで以上に民間及び市民セクターが活躍する機会を ARRN 及び各国内ネットワークを通じ創造していければと思います。その為にも、政治的思惑を排除し、また行政機関とも適度な距離感を保つことが重要と認識しています。

質問 9. How do the societies of Japan, Korea and China perceive river restoration?

日本、韓国、中国それぞれの社会では、河川再生という問題はどのように認識されていますか？

<回答>

まず、2010年10月にオーストラリアで開催された第13回国際河川シンポジウム（13th International Riversymposium）において、ARRN 活動で得た知見を素材として日中韓の河川再生の変遷や特徴をとりまとめた論文を JRRN 事務局が発表しましたので、その論文をご覧ください。【第13回国際河川シンポジウム発表論文参照（添付）】

それぞれの国における河川再生の取組みに共通することは、政府主導で実施された事業や施策が中心であり、一般社会・地域住民の河川再生に対する意識との間にギャップが存在することもご理解ください。特に洪水が頻発するアジアにおいては、行政と市民の対立、また市民間のギャップなど利害関係者間の問題が多々存在するため、「河川再生の認識」を単純に表現することは極めて難しいです。

例えば、韓国では国家事業として主要4大河川再生事業が進められていますが、一方で世論の過半数がその取組みに反対するなど、河川再生が社会においてどのように認識されているかの評価は難しいです。よって、中国や韓国での河川再生の社会の認識についての実情は我々は正確に把握できていません。

日本に関しては、2006年に政府が中心となってこれまでの河川環境施策のレビューが行われました。その結果として、「河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出すること」が今後の河川整備の基本指針として示され、具体的に以下の3つを目指した河川再生の取組が日本全体で浸透しつつあります。

(1)自然の営みに着目する

「河川全体の自然の営みを視野に入れた川づくり」

(2)地域の暮らしやまちの歴史・文化に着目する

「生物の生息・生育・繁殖環境の保全・創出はもちろんのこと、地域の歴史・文化と結びついた川づくり」

(3)市民連携も含めたプロジェクトサイクルを適正化する

「調査、計画、設計、施工、維持管理等の河川管理全般を視野に入れた川づくり」

一方で、現在もなお洪水被害が多発する中で、治水と河川再生の両立が大きな課題となっています。特に河川に関わる社会の関心を考えた場合、治水＝安全の方が河川環境改善よりも優先される現状があり、河川事業に対する行政の予算配分も治水対策が中心であることに今も変わりはありません。

質問 10. What do you do to bring about the message of river restoration to the society?

Do you do any type of awareness projects?

社会に対し河川再生というメッセージを送るためにあなたは何をしていますか？ 社会啓発のために具体的に何か事業を行っていますか？

<回答>

先に紹介した第4回世界水フォーラム分科会での6つの提言を社会に普及し、またそれを具体的に実現することが、ARRN及び各国内ネットワークの社会における役割と認識しています。

・6つの提言：<http://www.a-rr.net/about/overview.html>

ARRNの活動内容については、ARRN規約のArticle 3及びArticle 4に記載してあります。また先に紹介したARRN紹介資料内でも簡潔に整理してあります。

・ARRN規約：http://www.a-rr.net/jp/en/arrn/docs/arrn_charter.pdf

・ARRN概要説明：http://www.a-rr.net/jp/en/arrn/docs/ARRN_overview.pdf

活動に際し重要な視点は、ARRNやARRNを構成する各国内ネットワーク単独で河川再生の意義を社会に伝えることには限界がありますので、既に様々な活動実績のある他のネットワーク、学術団体やNGO/NPOと連携関係を深めながら、組織横断的な普及活動を心掛けることが必要と思います。加えて、日本を含むアジアにおいては、まだまだ河川再生に関わる専門情報が行政・実務者・研究者の一部のプロフェッショナルの中だけでクローズされているため、専門情報のインタープリター（通訳者）の役割を担いながら、これらを社会一般に普及していく活動も極めて重要と認識しています。講演会開催やガイドライン等の出版物の普及もこの活動の一つに当たります。

質問 11. In what form and what way do you think, the 'word' of river restoration can be brought out to the society the best?

どの様な形もしくは方法で、「河川再生」という言葉が社会に受け入れられるのが一番と思いますか？

<回答>

河川再生が自然環境や生態系を再生する取り組みだけではなく、国土の健全化、すなわち地域の活性化や日々の暮らしに潤いをもたらす、更には安全（水災害軽減）にも寄与するなど、自分（市民）にとって利益になるという価値観が社会に醸成されることが大切だと思います。

更には、河川再生という行為が媒介者となって、各地域の河川に対する地域住民の一体感（所有感）が高まることを願っています。その結果として、これまで歴史的に改変してきた河川を、治水・利水も大切にしながら生態系や人間生活との関係を健全なものにして、次世代へと引き継げるような川づくりを、地域住民主導で進められる持続可能な社会が実現すると思います。

質問 12. Looking at ECRR, and our activities and principles (see:

<http://ecrr.org/approach-ecrr.html>) , do you think that ARRN and ECRR do have significant differences in practice, take into account the regional/political/social differences?

ECRR と ARRN の比較に関する質問です。地域的、政治的、社会的な差異を考慮した上で、ARRN と ECRR はその活動や理念（<http://ecrr.org/approach-ecrr.html> 参照）に顕著な違いがあると思いますか？

<回答>

ECRR の活動や理念に賛同するとともに、その内容に対し、ARRN が目指す方向性と顕著な差異はないと思います。ただし、ARRN は、現時点ではこうした明確な理念を打ち出すほどに組織が成熟しておらず、関係者の協議を続けながら、こうした確固たる理念を社会に発信していければと考えています。

ECRR と ARRN の活動背景の大きな違いに、ECRR には EU という枠組み、すなわち EU Water Framework Directive の存在があります。アジアでは、現時点で EU の様な地域共同体はなく、EU Water Framework Directive の様なアジア地域の統一の目標なり、従うべきルールは特に存在していません。それ故に、ARRN 活動に参加する動機は、参加国それぞれで異なるのが現状であり、最初の質問で回答した通り、他国の先進的、優れた経験なり技術を自国に活用するという「情報交換」が動機を中心に位置していると思います。

先ほど述べた通り、現時点において、ARRN を構成する三か国間で直接関係する国際河川がないことも、ECRR と ARRN の活動背景の差にあると思います。

質問 13. What aspect do you think that make the practice of river restoration so different, looking at international level? Is it the political, environmental, social, technical, economic or cultural aspect(s)?

国際レベルで見た場合、どのような因子が、各国の河川再生の取組に差を生じさせていると思いますか？ 政治的問題か、環境か、社会か、技術か、経済か、もしくは文化か？

<回答>

気候をはじめとする自然特性、その自然の中で育まれた歴史・文化、自然に対する宗教観、地形特性、政治、社会構造、経済力、技術レベル等々、優先順位をつけることは難しいですが、すべてが複合的に関わりあった結果が川の姿として現れ、また河川再生の取組みに差を生じさせていることは間違いありません。

アジア地域の国々は、湿潤を特徴とする気象特性はもちろんのこと、急激な都市化による生活環境の悪化や、低平地への人口集中の問題など、自然・社会環境において共通点が多くあります。その一方で、日中韓の三か国を比較しても、社会体制、宗教、文化、法制度、技術レベル等の差異も数多く存在し、河川再生の内容が異なっているのが現状です。

但し、これ以上の国際比較の分析を試みたことはなく、現状でこれ以上のことは言えません。

質問 14. How can ECRR and ARR/JRRN be of complementary use at international level? How can we both contribute to the river restoration?

国際レベルにおいて、どのようにして ECRR と ARR/JRRN は双方のよさを引き立たせ互いに補完しあうことができるのでしょうか？ ECRR も ARR も、どのようにして河川再生の実現に貢献できるのでしょうか？

<回答>

この最後の質問については、2010年9月に開催した ARR Roundtable Meeting における「河川再生ネットワークの果たすべき役割について」内で議論しているので、詳しくは以下の講演録をご覧くださいのが最善と思います。

・ Roundtable Meeting 講演録：<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/ARRroundtableEng.pdf>

特に、ECRR と ARR の関係については、JRRN 技術委員である白川准教授のご意見（ヨーロッパとアジアの類似性と相違点を十分に考慮した上での情報共有）や、中国からの参加者の質問を受けての ECRR 会長のご回答（互いに経験したことのない事象への解決策が、アジアとヨーロッパそれぞれの情報共有を通じ得られる）等が参考になるかと思えます。

以上